

駒場高等学校百二十周年に寄せて

日高 頼子 (駒9)



「鳥の歌」(正面玄関前)



20年前、母校百周年記念に駒場松桜会から寄贈したブロンズ像「鳥の歌」の作者、日高頼子氏にご寄稿いただきました。

駒場松桜会報

第111号

2023年4月1日発行

一般財団法人
駒場松桜会
都立駒場高校同窓会
〒153-0044
目黒区大橋2-18-1
都立駒場高校内

TEL/FAX

03-3466-7579
(毎月曜日の業務日
以外は留守番電話)

携帯電話から住所
変更ができます。



住所変更専用
QRコード

駒場高校創立百二十周年との由、誠にありがとうございます。私は駒九の芸術科(美術)出身です。戦後の疲弊した世の中でありましたが、人生で最も純粋な時期、両親をはじめ先生や友人に囲まれ珠玉の高校生活を送りましたことは誠に感無量でございます。只今も友人達とは姉妹のように親しくしていただいております。

高三の年、彫刻家の加藤昭男先生が赴任してこられ、私に彫刻を勧め下されたこともあり、また丁度銀座のデパートで戦後初めての「アントワヌ・ブルデル」の大展覧会がありまして、それを観た瞬間、今迄知らなかった精神の塊のような、幻想的な彫刻世界に引き込まれる想いを強く致しました。彫刻をやってみたい、ということとを父に話しますと、父が「たった一度の人生だから好きなことをやれ」と背中を押してくれたことは忘れられません。東京藝術大学彫刻科、同専攻科を修了し、恩師の淀井敏夫先生をはじめ立派な先生方、先輩方の薫陶は私の心の宝となっております。新制作展に二回、以

後二科展に毎年出品し、今年で出品六十回となりました。その間数々の企画展、グループ展、その他等に出品することにより多くの作家達の中に自身の作品を置いて達観できたことは何よりの勉強でした。一九六四年、工藤健(彫刻家)と結婚し、一男一女に恵まれ、只今は子供達もそれぞれの道を立派に歩んでいる様子は、何よりも安心するところです。私も両親の理解と素晴らしい先生方や友人に恵まれたこと、そして生涯を通して素晴らしい伴侶に恵まれましたことを何よりの誇りに思っております。

二〇〇〇年駒場高校創立百周年記念ミニユメントの光栄なるご依頼を松桜会様から頂きました(二〇〇二年設置)その責任の重さに身の引き締まる思いでした。同窓会の小杉様、中江様、他多くの友人達の勧めで不肖ながら制作への勇気をいただきました。彫刻で一番難しいのは、何を「作るか」だと思います。そしてそれをどのように表現するかというところです。ミニユメント「鳥の歌」は、自由と平和への

の祈りを音楽の力を通して全世界に貢献した二十世紀の偉大な音楽家であり偉大な人間である「パブロ・カザルス」がカタロニアの民謡を編曲した「鳥の歌」をテーマとして制作したものです。現在は「平和の歌」として全世界で演奏されています。

構成として二人の女学生が寄り添いながら「鳥の歌」を口ずさんでいるところですが、腰から胸にかけて思い切った大きな空間を作り、その中心に光を集め、そこに「鳥の歌」の楽譜を置いたものです。その折具象的説明世界をなるべく簡潔にし、直面と曲面、直線と曲線、凸と凹というような表現で二人の人間と楽譜の一体化につとめ、そこに生まれる空間がリズムを持ち、対物的内的生命をつかみ、自由と平和の精神を奏でることが出来ればと念じました。カザルスの深いチェロの音と旋律はただ美しいと言うにとどまらず「人間は必ず平和を達成出来る」と勇気と希望を語りかけてくれるように聞こえます。またカザルスは「鳥達は『ピース(平和)』『ピース(平和)』と鳴いて空を飛んでいるのです」と言っています。自由と平和が守られていない今日「貴方はそれでいいのか」とカザルスは問いかけているのではないのでしょうか。



「山」(本校図書室に設置)

いたしました「山」(ブロンズ彫刻)は百周年記念像「鳥の歌」を同窓会の皆様のお力で完成することが出来ましたことに感謝致し、僭越ながら私から駒場高校の増々の御発展を祈念致しまして寄贈させて頂いた作品です。制作意図は、人間が四季折々山の雄姿を眺め、その美に感動し、人間の及ばない大きな力や偉大な精神を感じます。そして勇氣や希望を与えてくれる大自然に感謝致します。そして生命を持つ者の消えゆく宿命ゆえでしょうか、この神秘的な世界に生まれ出たことを感謝し、自由と平和を祈り憧れを抱くことは永久に変わることはないと思います。

彫刻は詩魂である―(高村光太郎)

―あらゆる芸術は人間の要求を最も純粹に生かしたものと生かされる―(偉大な先人の言葉です)

悠久な時の流れの中で、限りある命の神秘芸術に於てそれを

どうとらえるか。

有史以来秀れた彫刻芸術は時空を越えて人類の魂に響きます。その美は彫刻の言葉を持つて彫刻の世界でしか表現出来ない「美」を湛えております。この不思議さこそ彫刻芸術の魅力でありましよう。創造の世界は誠に限りなくまさに雲をつかむような、つかみよのない世界ですが、どのように世の中が揺れ動きましようとも、変わることはない世界(不易流行)を見



「あかね雲」2011年 第96回二科展

つめていくことかと思えます。私には遠く及ばない世界ですが、常にものの本質を見極める眼を清め、鍛える努力をし、無心になって制作を探索し、感動するといつの間にか目で見えない静謐な神秘的な美の世界が見えてくるような気が致します。

いづれの世界を歩みましようとも、自分を信じ、明日の自分を見る為に、夢に向かつて悠々と飛翔していききたいものと存じます。



「幻想」2021年 第105回二科展

プロフィール

1937年東京都に生まれる
1962年東京藝術大学彫刻専攻科修了
毎年二科展に出品 野外彫刻展、企画展、グループ展、夫妻展、個展、作品記録集刊行 等他
安宅賞 金賞、ローマ賞、文部大臣賞、長野市野外彫刻賞、文化庁買上げ、現在公益社団法人二科会参与

主な作品収蔵場所

国立近代美術館、東京藝術大学、秋田県立美術館、蓼科高原芸術の森彫刻公園、美ヶ原高原美術館、今泉記念館、春日部市民文化会館、大館文化会館、武蔵野音楽大学、啓明学園、成城学園、駒場高校、東京都、南魚沼市、入間市、赤穂市、千葉市、南幌町、尼崎市、神戸市、府中市、富士吉田市、北九州市、宇部市、埼玉県 等他

新入会員から



駒75-1ホーム 北岡 大知

駒場高校で過ごした3年間は、私にとってとても有意義なものでした。しかし、丸々3年間コロナと日々を過ごす中で、コロナ禍でなければとやるせない思いをすることも多々ありました。

部活動、都駒祭、体育祭、修学旅行など色々な制限をかけられました。それでも先生方や生徒達自身で工夫し、試行錯誤を繰り返して、従来の本来の形でないにしても、新しい形で活動を十分に楽しめました。

このお互いの顔もよく知らない時間がいつまで続くのか、私にはわかりませんが、もし私達の思い出が新たな駒場の伝統の第一歩となればこれほどこれほど嬉しいことはありません。こんな特殊で楽しい高校に3年間通ったからこそ、駒場に来て良かったと強く思います。ここで得た経験を一生の糧にします。



駒75-6ホーム 松尾 咲希

私たちは駒75は、入学から卒業まで新型コロナウイルスの影を大きく受けた学年でした。

約2か月間の休校期間から始まった高校生活は、その後も部活動や行事など多くの場面で制限を受け、きつと多くの人が日々不安を感じながら過ごしたのではないかと思います。しかし、このような状況にあっても私が悔いなく高校生活を終える

ことができたのは、駒場高校で出会ったかけがえの無い仲間のおかげです。特に3年生の都駒祭では、様々な制限の中でクラスメイトと試行錯誤し、自分たちの力で全て出し切った最高の劇を作り上げることができました。本番が終わった後に全員で劇の成功を喜んだ時の光景を、今も忘れることができません。

我慢することも多くあった3年間でしたが、その分一つひとつの思い出が色濃く残っています。駒場高校での数々の出会いに感謝し、今後成長し続けていきたいです。



駒75-1保体科 長井 悠歩

駒場高校での3年間は生涯忘れられない思い出がいっぱいあります。

出となりました。私たちはコロナの影響で約2ヶ月遅れで学校が始まりました。その後様々なことを制限されてきました。また、学業や部活、今まではない厳しさにつまづく事も多くありました。そんな私の生活を支えてくれたのは駒場で出会った最高の仲間たちです。出会った当初は、まだまだこちなくお互いの本音を言い合うことも出来ていませんでした。ですが、遠泳実習を初めとする実習を全員で乗り越えたことや実技発表会等の行事を重ねることに団結力を高め、他には代えることの出来ない関係を築くことが出来ました。楽しい時間だけではなく、辛く苦しい時間も共にした仲間たちだからこそ私もこの3年間を有意義に過ごすことが出来たと思います。駒場高校での多くの経験を今後の糧にし、新しい環境でも頑張っていきたいと思えます。

♪♪ 2022年度 駒場松桜会コンサート報告 ♪♪



今回のコンサートは土屋美寧子さん(駒20ピアノ)とご友人の堀沙也香さん(チェロ)の「ピアノとチェロの午後のひととき」となりました。

会場は間隔を空けて座っていただきほほ満場となり、鮮やかなビリジャングリンのドレスの堀さん、黒地に青緑の柄の落ち着いたドレスに黒のカーディガンを羽織られた土屋さんを私たち聴衆は期待に満ちた拍手でお迎えしました。

最初はベートーベンの「娘が女房が(モーツァルトの歌劇「魔笛」より)の主題による12の変奏曲」です。パガニーノの歌う調べがベートーベンにより12種類の変奏曲となつて、チェロとピアノが軽やかにさまざまな変奏を繰り返して、私たちはあつという間にお二人の世界に引き入れられました。

華やかなコダのあと、メンデルスゾーン「無言歌」。チェロのために書かれた曲で、落ち着いたチェロの響きとチェロの魅力を引き出すピアノ演奏が心に沁みま

気がつくとおつという間に時が過ぎ、最後の曲は、これもとても期待していたフランスのソナタ。バイオリンでの

引き出すピアノ演奏が心に沁みま

す。

次のダヴィッドフの「泉のほとり」は、超絶技巧を軽々と響かせる余裕のボウイング、豊かな中間部、どっしりと支えるピアノとのアンサンブルにワクワクしました。

ビゼーの「花の歌」は、オペラ「カルメン」のテノール、ドン・ホセと同じ音域で演奏され、まるでテノールとオーケストラの演奏を聴いているようでした。

カサドの「愛の言葉」は、「カルメン」つながりでスペインの情熱的で力強いメロディーが印象的で、作曲者でチェリストのカサドが師ガザルスに献呈した曲とのことです。以上、どの曲もチェロとピアノの魅力を充分に伝えてくれました。

休憩をはさみ、土屋さんのソロでドビュッシーの「月の光」。演奏会の最初のベートーベンとは全く違い、一気にドビュッシーの宇宙に持っていかれました。いつまでもひたつていたい演奏でした。

ソナタが有名ですが、チェロならではの深い音色で、新たなフランスの魅力を見たような気がしました。

フランスで心を満たされて、演奏会もお開き...ではありましたが、まだ聴き足りない心地のところ、アンコールにサンサーンスの「白鳥」。アンコールにはもったいなさ過ぎる演奏で、でもフルコーラス料理の後に極上のデザートをお願いしたようでした。

今回はチェロとピアノのアンサンブルの、なかなか聴く機会のない曲が多く、印象に残る演奏会となりました。堀沙也香さんには心から御礼申し上げます。また、堀さんを連れてきてくださった土屋美寧子さんにも感謝申し上げます。

また、このような機会がありましたら、みなさん是非いらしてください。

角田やよい(駒20)

2022年11月26日
於 東京オペラシティリサイタルホール

次回「松桜会コンサート」の予定
2023年11月25日(土)
於 東京オペラシティリサイタルホール

松桜会活動についてのお知らせ

都駒祭について

昨年度はコロナ禍に対応し、母校では9月10日(土)・11日(日)に、生徒と保護者のみの参加で開催されました。

◆松桜会コンサート

出演者募集!

2023年11月25日(土)午後2時から、東京オペラシティリサイタルホールにて松桜会コンサートを開催する予定です。

つきましては、出演ご希望の方を募集いたします。ご希望の方は5月末日までに松桜会事務局までお問い合わせください。

尚、コンサート開催に際しましては、本年も新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、入場者数を制限するなど適宜対策を講じてまいります。

「コチロンについて

大変残念ですが、今年度も開催を見合わせることにいたします。

「同窓の集い」について

「コチロンを踊る会」の例会は、引き続き休会とします。再開する際はホームページ・会報でお知らせいたします。

松桜会役員募集!

駒場松桜会では評議員・理事・スタッフとして松桜会活動に協力してくださる方を募集しています。

同窓会会報の企画編集、学習講座・コンサートの企画など様々な事業を充実させたく思っています。現在はコロナ禍のため一部活動を縮小していますが、コロナ禍収束後、通常通りの活動を再開します。

ご興味のある方は事務局までお問い合わせください。

追悼 菱刈 隆永先生

赤間神宮名譽宮司
水野 直房(駒5)



去る八月六日、吾が駒五の師父と仰ぐ日本史の恩師 菱刈隆永先生には百寿の誕生日を芽出度く迎えられ、心から御祝いを申し上げました。其の後も健康を保持されましたが、八月十八日眠るが如く逝去の訃報が奥様から届き、驚きの中に弔詞を捧げ奉りました。

駒五の私共は昭和九年の生まれで、大正十一年生まれの菱刈先生とは丁度ひと回り違う「いぬ」歳で、今年満八十八歳を迎えましたが、コロナ禍のため吉例でありました東京での同期会も、この三年は実現出来ない中で、恩師の百寿のお祝いも出来ず、菱刈先生は帰天されました。ところが、まことに残念でなりません。とりわけ私は二年生の二学期から駒場高校に編入させて頂き、二年生から三年生の卒業時まで、学級担任として御指導を頂いた恩師こそ誰あろう、菱刈先生でした。

東京への願望も出し難く、父の許しを得、編入試験を経て、当時は未だ兵舎のままであった東京都立駒場高等学校の二年生。担任の先生が菱刈先生でした。丸坊主の菱刈先生に先ずビックリ。加えて大連の小学校の時の同級生、蟻川なほ子さんに再会出来たことも驚きでした。冬休み

に下関に帰って父に報告しますと、「なに？ 菱刈先生だと」と申し乍ら大連神社の参拝者記帳書を取り出して私に、関東軍司令官の菱刈閣下

のご令息ではないか、お正月上京の折、これを持参して先生にご覧に入れないさい...とのこと。新学期早々、先生にご覧に入れるや、「これは親父だ」と即座に先生も私もビックリ。昭和二十二年三月、大連から引き揚げて以来の出来事に不思議な御縁を感じました。卒業以来六十九年。菱刈先生も私共も駒場は青春の真つ只中。

加えて卒業後も菱刈先生を囲む歴史の勉強会が定期的に開講されたことも、先生百寿の源でした。このグループ有志が下関まで源平合戦の現地探訪にいらして下さった時の感激は今も昨日の出来事のように思い出されます。かけがえの無い恩師と教え子たちです。

先生との交流はコロナまで続きました。取り分け満州の玄関口である関東州の大連生まれで、敗戦を外地で迎え、内地への引揚げ一家であったことと、菱刈先生との御縁は上京して駒場高校の生徒になっていなければ、神主の倅で一田舎学生にすぎなかつたことに思いを致します時、恩師と弟子との不思議なめぐり合わせを感じないではいられません。

充実した駒場の二年間を、私は終生誇りにして今があります。追懐に時を移しました。

遥かに菱刈先生在天の御霊を拝し、菱刈家ご一統と母校駒場高校の行く末を永く久しくお守り下さるよう祈念申し上げます。合掌

碧先生を偲んで

平島 満(駒12)



昨年の夏、猛暑とコロナ禍でぐうたら生活を送っていたある日のこと、小川碧先生の訃報が突然飛び込んできました。全く予期せぬ事態で、只々驚くとともに目を覚まされました。早速、親しかった友人、知人の方々と連絡を取り、葬儀に参列しました。碧先生の生前のご活躍を思うとき、少し寂しい葬儀ではありましたが、綺麗にお化粧をされたお顔を拝見しつつ、これまでのご縁に感謝を込めてご冥福をお祈りしました。

碧先生は駒3、私は駒12、年の差9歳で私が転任で駒場高校に赴任するまで、全くご縁はありませんでした。ところが同窓生の有難さでしょう、着任早々碧先生の方から母校の為、後輩の為がんばりましょうとお声を掛けて下さいました。母校に帰ったとは言え、教科の先生方はお世話になった恩師の方ばかり、教科職員室では小さくなっているところでしたから、大先輩からの励ましは大変有難い力添えでした。そうした出会いから、碧先生から松桜

会の役員(校内理事)に推薦して頂き、それまでご縁のなかつた松桜会とも繋がりが出来るようになりました。お陰様で定年退職後は松桜会理事、評議員、更に駒場幼稚園理事として、今なお関わっていただけるのも碧先生の導きがあったからこそと感謝しております。

もう一つ、碧先生との思い出深いご縁は私からの無理なお願いを快く引き受けて下さったことです。それは陸上部の顧問です。一部活動の顧問とは言えない程の過激な生活が伴っている話なのですが、私が在任中の21年間、一言の小言も言わずに務めて下さいました。当時の陸上部は毎年、全国大会、関東大会に多数が出場し、合宿は夏、春と2回実施しておりました。当時の教育委員会規定で女子生徒の宿泊行事には女子教員の引率が義務付けられており、碧先生はその全ての行事に参加して下さいました。

部活動以外の宿泊行事もあり、それらにも参加されておられたことを思う時、大変なご苦労があったと思うのですが、そうしたことを周りには感じさせないのが碧先生のお人柄なのかなと今更ながら思わずにいられません。感謝あるのみです。

「永遠の駒場愛」を生涯歩み続けた碧先生とのお別れを惜しみます。

追記

菱刈 隆永先生

ご在職期間1950〜1976年

数多い教え子それぞれの同期会に積極的にご出席、交流を楽しまされ、教え子が講師となって開催の松桜会講座にも参加してくださいました。

小川 碧先生

ご在職期間1960〜1993年

多くの教え子と同期会で交流を楽しまれ、松桜会会員としては理事・評議員を務め、特に「同窓の集い」では発足時から会の運営のためにご尽力いただきました。



お若い頃のお二人

母校生徒の活躍 (1月現在)

- 男子バスケットボール部
 - ・関東大会東京都予選 ベスト16
 - ・全国高校総体東京都予選 ベスト16
- 女子バスケットボール部
 - ・関東大会東京都予選 第8位
- サッカークラブ部
 - ・全国高校総体東京都予選 ベスト16
 - ・関東大会東京都予選 ベスト32
- 水泳部
 - ・東京都高校水泳競技大会
 - 男子総合第7位
 - 男子100m背泳ぎ第2位
 - 200m背泳ぎ第7位
 - 400mフリースタイル第8位
 - 400mメドレーリレー第5位
 - 女子400mメドレーリレー第8位
 - ・関東大会出場
 - 男子100m背泳ぎ第8位
 - 男子100m背泳ぎ第8位
 - 400mメドレーリレー
 - (以上 全国大会出場)
- 陸上競技部
 - ・関東大会陸上競技大会
 - 女子やり投げ第6位(全国大会出場)
 - 女子七種競技第7位
 - 女子走幅跳第8位
 - ・関東選抜新人大会
 - 女子走幅跳第2位
 - 女子やり投げ第8位
 - 女子走高跳第9位
- 演劇部
 - ・高校演劇サミット2022出場
 - KMC
 - ・東京都高校軽音楽コンテスト 優秀賞1組 入選2組
 - ・全国高校総合文化祭 出場
- 新聞局
 - ・東京都高校新聞コンクール 優秀賞 獲得
- 剣道部
 - ・全国高校剣道大会東京都予選 男子個人ベスト32
- 出場
 - ・全国JOCジュニアオリンピック 男子100m背泳ぎ 100m自由形 100mバタフライ
- 体操競技部
 - ・全国高校総体東京都予選
 - 男子団体総合第3位・個人総合第8位
 - 女子団体総合第3位・個人総合第6位
 - ・国民体育大会東京都予選
 - 男子個人総合第6位(関東大会出場)
 - ・関東大会出場

松桜会事務局からのお知らせとお願い

松桜会年会費免除のお知らせ

松桜会年会費は本年度中に80歳を迎える学年から免除となります。(今年度は駒14回から上の学年が対象です。)

ご寄付のお願い

松桜会では1口千円からのご寄付を受け付けています。皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

事務局の業務日時について

松桜会事務局の業務は、通常毎週月曜日の午前10時30分から午後4時30分までです。それ以外は、留守番電話かFAXでご連絡をお受けし、翌月曜日に対応させていただきます。よろしくお願いいたします。

住所変更届のお願い

転居の際には新住所のご連絡をお願いいたします。

お手伝いのお願い

松桜会では会報の発送作業、都駒祭参加時のお手伝いなど、同窓会活動にご参加いただける方を募集しています。ご興味のある方は松桜会事務局までご連絡ください。

届け出の方法

本紙1頁にあるQRコード、またはホームページから手続きできます。

馬淵理事長からご報告とお知らせ

創立百二十周年を祝し、母校に懸垂幕を一本寄贈いたしました。現在、六本の幕が正門から見える壁に掲げられています。生徒さんの益々のご活躍を願っております。

母校から百二十周年記念誌が刊行されました。一冊(A4判60頁)700円(送料込み)で頒布いたします。ご希望の方は年会費振込用紙に追加記入の上お申し込みください。入金確認でき次第、郵送いたします。なお冊数に限りがありますので、早めにお願いたします。

寄付者芳名

2023年1月末日現在

2022年7月以降本年1月末日までに44名と一団体の皆さまから合計198,109円のご寄付をいただきました。

皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

- 第三43 上遠 恵子
- 第三43 郡 恭子
- 駒4 小川 凱子
- 駒4 中村 慎子
- 駒4 鈴木 厚子
- 駒5 浦川 憲子
- 駒5 右山 三名子
- 駒6 上条 重夫
- 駒6 小沼 静子
- 駒6 菊池 良子
- 駒6 田中 久美子
- 駒7 福井 あや子
- 駒7 小松 榮子
- 駒8 大木 節子
- 駒9 金子 雅子
- 駒9 英 順子
- 駒9 鈴木 敏明
- 駒10 八木 知子
- 駒11 今村 正生
- 駒11 今村 範子

- 駒12 伊藤 美佐子
- 駒12 長島 弘毅
- 駒13 長岡 永樹
- 駒13 坂 歌子
- 駒14 匿名2名
- 駒15 藤崎 寿子
- 駒15 匿名1名
- 駒16 木村 福夫
- 駒16 匿名1名
- 駒17 石井 康智
- 駒17 岡田 喜代子
- 駒17 小原 政則
- 駒17 匿名4名
- 駒18 山口 桃子
- 駒18 林 孝子
- 駒21 匿名1名
- 駒21 坂井 泰
- 駒22 名取 修
- 駒22 廣瀬 明子
- 駒22 川井 真央
- 駒22 6ホームクラス会

計報

- 山本 茂之先生(数学) (2020年9月25日)
 - 小川 碧先生(駒3)(英語) (2022年8月17日)
 - 菱刈 隆永先生(社会) (2022年8月18日)
- 謹んでご冥福をお祈りいたします

松桜会講座のお知らせ(令和5年度上期)

4/14(金)
締切(必着)

対象者：駒場松桜会会員・母校教職員・PTA会員 他

申込方法：往復はがきに、次の内容を記入してください。

- ①講座名 ②郵便番号・住所 ③携帯及び固定電話番号 ④氏名
- ⑤会員一卒業回 教職員一所属 PTA会員一お子様の氏名・学年・ホーム

☆返信はがきに宛先の住所・氏名を記入してください。1つの講座につき1枚でお申し込みください。

申込先：〒153-0044 目黒区大橋2-18-1 都立駒場高校内 (一助)駒場松桜会事務局

A 講座

講師 **石井 康智**
(駒17)

早大文学部(心理学)、同大学院(修士・博士)を経て文学部助手、講師、助教、教授。現在名誉教授。生理心理学・健康心理学・身体心理学分野。動作感覚の実験臨床的研究や長野県長谷村(現伊那市)でワールド研究など行った。

やぶにらみの心理学Ⅱ

1. 「ストレス」ということ
～天才ハンス・セリエはどこに目を付けた?～
2. 健康心理学の現在
～健康心理学は健康に寄与する?～
3. 他人を理解することの問題
～認知、個人差、色眼鏡～

心理学は心の働きやその仕組みを探し、利用しようとする。しかし人は多様性、複雑性の塊である。個人差は判断過程、知覚、性格、感情表出、行為などに出ることが知られている。まず、先入観に気付き、周囲の心理的現象を素直に追うことから始める。

5/13(土)・5/27(土)・
6/10(土)
10:30～12:00

定員：20名
受講料：1,500円
会場：母校東館和室

B 講座

企画
講座部会

JR中央・総武線の駅から歩く路地めぐりⅢ —水道橋駅・御茶ノ水駅—

特にアップダウンの多いコース!!

1. 水道橋駅から：多くの武家屋敷の跡地を巡り、於大の方や千姫など江戸に生きた女たちが眠る街を歩く。
2. 御茶ノ水駅から：「文豪旧居跡の街」へアプローチします。意外に古い建物のある坂の街を歩き回って、本郷三丁目へ。

5/20(土)・6/17(土)
10:00 駅出発
12:00 解散

諸般の情勢により、日程の変更や中止になる場合もありますので、ご了承ください。

定員：30名
受講料：1,500円
(含 資料代、保険料)

参加者の声

「やぶにらみの心理学」を受講して

「やぶにらみ」という言葉には、ちょっと斜めから覗いてみるというニュアンスがあります。辞書には「見当違いな見方」ともあり、石井講師はどのような切り口で語られるのかと興味を湧きました。

用意された資料は、紀元前のギリシャ哲学に始まり現代に至る心理学の歴史、百人を超える研究者たち、心理臨床の世界までを網羅した五十七ページにもなる、斜めとか見当違いではない本筋の内容でした。たった三回の講義でもとても語り尽くせるものではありません。そこで石井講師は、時にはワークシヨップや体験談などをさらりと交えて、心理学の奥深さを垣間見させて下さいました。

資料の始めに記された「心理学は身近な領域ではあるが、理解したい面がある。専門知識ではなく常識的レベルに落とし活用できるようにすることを講座の目的とします。こんな話もある、程度にしておきましょう。なまじの専門知識は知識に頼る態度、言動になる。そうすると百害あって一利なしです。」という言葉が心に残っています。続きの講座を期待しています。

武田 和子(駒17)

「JR中央・総武線の駅から歩く路地めぐりⅡ」に参加して

娘たちが皆結婚し、里帰り出産の世話も一段落したところで、同窓生の主人と共にかねてから興味があった路地めぐりに初めて参加させていただきました。行先は私が中高生の頃住んでいた市ヶ谷とお隣の飯田橋・神楽坂なので期待大。

第一回のコースでは、かつて家族で初詣に訪れていた亀岡八幡宮や、奇しくも母校の牛込第三中学校を見ることができてラッキーでした。また、防衛省所在地が尾張徳川家上屋敷跡地であるとは初めて知りました。

第二回の神楽坂は、牛込三中の学区内でもあり懐かしい場所です。毘沙門天の善國寺は変わらぬ姿を見せてくれた一方で、赤城神社は境内にガラス張りのカフェを有するマンションが建ち、すっかり近代化されていました。

両回を通して、大都会の真ん中の細い路地に小さな神社やお寺がいくつもあふれる事に驚き、今でも大切に守られている所に日本人の心を感じました。

最後になりましたが、この企画では参加者60名程が5つのグループに分かれ、各リーダーのもと、自由な雰囲気ですら歩きまわります。ある先輩が「気楽なのがこの企画のいい所なんです」と仰っていました。ご興味のある方は一度参加なさってみてはいかがでしょうか。

長嶋 洋子(旧姓 小田)(駒36)